



3年経験者研修の一環で研究授業を実施しました！

先日の国語科の研究授業に続き、9月14日(金)英語科の河野教諭が3年研の一環で「英語表現Ⅱ」の研究授業を3年3組の生徒たちと一緒に実施しました。

河野先生は、厳木高校に新採として勤務して現在4年目、第3学年担任、進路指導部員、サッカー部顧問と、若手ながら責任ある業務を任され活躍しています。

3年研では、今回は、研究授業を実施しました。他にも教員としての素養や実践力を育成するため様々な研修に参加してなどが行われますが、今年はコロナ禍のため、オンライン研修が多くなっています。

今回の授業は「SDGs」を題材した活動で、生徒たちは河野先生のプレゼンテーションを聞きながら、プレゼンテーションやミニディスカッションのやる方について体験を通して学ぶことが目的でした。

何よりも45分間、よどみなく英語で生徒たちに語りかけ、問いかけ続ける河野先生とその英語を理解し、反射的に英語で答える生徒や、時間をかけて考えながらも自分の言葉(英語)で答えようとする生徒たちの姿は感動的でした。



「少年がゴミ江尾拾っている。」と生徒が英語で説明してくれました。



この日は、先生の話聞くだけで大丈夫だろうと考えていた生徒もいましたが、河野先生の巧みな発問に引き込まれ思わず英語で発言したり、英語で質問に答えたりして楽しく活動していました。厳木高校では進路希望に応じ少人数指導を行っています。このクラスもわずか4人という他校ではあり得ない恵まれた環境で生徒たちは学習に取り組んでいます。とはいえ本校には英語が得意でない生徒もいます。そんな中で、学習活動のほとんどを英語で行うことができるということは本当に素晴らしいと感じました。



「世界には1日に2ドル以下で暮らしている人が大勢いる」と聞いて、生徒たちは驚いていました。



【校長のつぶやき】私は元々英語の教員です。そして持続可能な開発目標SDGsは、校長としても、生徒たちに世界や日本の現状を「知って」欲しい、自分に何が出来るか「考えて」欲しい、そして「行動して」欲しいと、願っているテーマです。河野先生の授業では、3人の生徒たちが3人とも、主体的に、そして自然な英語で話し合いを繰り広げる姿を見せてくれました。以前から生徒のやる気を引き出すのが上手い先生ですが、やはり、信念を持って英語を使う活動を続けてきた成果だと感動しました！**“Leave No One Behind!”** 河野先生、お疲れ様でした。